

# まちナビ

伝統的な商家の趣を残す京町家として、京都市登録有形文化財に指定されている秦家住宅(下京区)。ここでは、秦さんが代々暮らしている家でもあります。この家で、今年の5月から毎月1回開催されている「親子会」という体験イベントを訪ねました。

撮影/児嶋肇

## 知恵を

## 生かして、

## 手間を楽しむ

## ひとときを

京町家・秦家住宅の暮らしを体験する「親子会」



上新粉をこねて、蒸して、さらにそれをついて、お団子を作っていきます。「耳たぶくらいのがらかきになるようにね」とめぐみさん(写真左)



みなでお行儀よくお団子をいただきます。家の雰囲気を感じてか、おいたをする子は、はいないのだそう



一生懸命、板の間をみがく子どもたち。見ているこちらも、楽しくなってきました!



### 落ちて着けるから好き

参加者の今田さん親子は、大阪から毎回参加するほどの秦家ファン。その魅力を小学4年生の舞子ちゃんに尋ねると、「部屋が楽しいし、落ちて着けるから好きです」。

めぐみさんと一緒に親子会を運営する星野祐美子さんは、「生活の知恵や、季節を大切に暮らす仕方など、ここで体験したことを心に持って、子どもたちが大人になってくれたらうれしい」。

敷居が高いイメージを抱きがちな京町家ですが、秦さんは「来てみたら、普通の家。意外と快適で、手間のかかることが楽しかったりするんです」。確かに、畳拭きは意外なほど盛り上がりましたね! 建物の雰囲気だけではなく、手触りや時間の流れも感じることができました。

次回「炭火で楽しむお茶時間」10月22日(土)午後2時。参加費大人1000円(小学生以下無料)、定員親子10組、前日までに要予約。詳しくは秦家のホームページ <http://www.hata-ke.jp> を参照。

「こんには」。ちょっと重いガラス戸を開けると、少し暗くて、静かな雰囲気漂っています。ヨソのお宅、しかも貴重な建物におじゃまするとあって、ちょっぴり身がひきまわります。

「親子会は、その名の通り、親子を対象にした催し。参加者は、これまで建具替えを手伝ったり、祇園祭の「階囃子(はやし)」を聴いたり、お盆には青竹を割ってそのうめん流しをするなど、季節ごとの京町家の暮らしを体験してきました。「町家の暮らしを知る」というと、お勉強になりがちですけど、ひとときを過ごしてもらっただけのことなんです」と秦めは、店の間、玄関の間、

「この日は、4組12人が参加。子どもたちは、うれしそうに玄関を上がってきました。

さて、この日は、まずはだしになり、畳の間に雑巾がけ。その後は、ぬか袋で板の間みがき。お月見団子も作ります。「雑巾をきゅーっと固く絞って、畳の線にそってふくのよ」「木綿の袋にぬかを入れて、板の間をこすりゃってみがくと、ぬかの脂分で、ほら光ってくるでしょ?」

めぐみさんの話を真剣に聞いていた子どもたち

### 雑巾がけと床みがき 一生懸命な子どもたち